

令和6年度第1回 うべ未来モニターアンケート集計結果

1 アンケートのテーマ

『再犯防止の取組について』

- (1) 実施期間 6月17日（月）～6月30日（日）まで
- (2) 担当部署 地域福祉課

2 モニター数・アンケート回答者数

- (1) メール・郵送文書到達モニター数 911 人
- (2) 回答者数（回答率） 314 人（34.5 %）

3 回答者の属性

※ 端数処理のため比率の合計が100%にならない場合があります。

【年代】

項目	回答者数	比率	グラフ
10歳代	2 人	0.6 %	
20歳代	3 人	1.0 %	
30歳代	21 人	6.7 %	<div style="width: 6.7%;"></div>
40歳代	50 人	15.9 %	<div style="width: 15.9%;"></div>
50歳代	63 人	20.1 %	<div style="width: 20.1%;"></div>
60歳代	65 人	20.7 %	<div style="width: 20.7%;"></div>
70歳代	92 人	29.3 %	<div style="width: 29.3%;"></div>
80歳代	18 人	5.7 %	<div style="width: 5.7%;"></div>

314 人

ご協力、ありがとうございました。



【居住校区】

項目	回答者数	比率	グラフ
東岐波	13 人	4.1 %	
西岐波	17 人	5.4 %	
恩田	39 人	12.4 %	
岬	16 人	5.1 %	
見初	3 人	1.0 %	
上宇部	28 人	8.9 %	
神原	12 人	3.8 %	
琴芝	20 人	6.4 %	
新川	11 人	3.5 %	
鵜の島	9 人	2.9 %	
藤山	15 人	4.8 %	
原	7 人	2.2 %	
厚東	3 人	1.0 %	
二俣瀬	4 人	1.3 %	
小野	8 人	2.5 %	
小羽山	11 人	3.5 %	
常盤	16 人	5.1 %	
川上	14 人	4.5 %	
厚南	12 人	3.8 %	
西宇部	22 人	7.0 %	
黒石	6 人	1.9 %	
船木	14 人	4.5 %	
万倉	4 人	1.3 %	
吉部	3 人	1.0 %	
在学・在勤	7 人	2.2 %	

N=314

【性別】

項目	回答者数	比率	グラフ
女性	156 人	49.7 %	
男性	158 人	50.3 %	

N=314

4 回答集計

- ※ 比率は、各設問の回答対象数（N）に対する割合を示しています。
- ※ 単数回答であっても、端数処理のため比率の合計が100%にならない場合があります。

『再犯防止の取組について』

担当部署 地域福祉課

アンケートの趣旨

令和5年版再犯防止推進白書によると、刑法犯により検挙されたものの約半数が再犯者であるという状況が続いています。そのため、防犯対策にとって、再犯防止の取組が重要と考えられています。

本市においては、令和2年3月に「宇部市再犯防止推進計画」を策定し、再犯防止の取組を進めているところです。犯罪が繰り返されない、何よりも新たな被害者を生まない、市民が安全で安心して暮らせる社会の実現のために、今年度は「第2次宇部市再犯防止推進計画」の策定に取り組み、国及び県計画と連携し、かつ、本市の実情にあった実効性のある計画の策定を目指しています。

本アンケートは計画策定の参考としますので、ご協力をお願いします。

問1 あなたは、「宇部市再犯防止推進計画」を知っていますか。

項目	回答者数	比率	グラフ
1 知っている	60人	19.1%	
2 知らない	254人	80.9%	

N=314

問2 あなたは、「再犯防止」に関心がありますか。

項目	回答者数	比率	グラフ
1 非常に関心がある	54人	17.2%	
2 ある程度関心がある	194人	61.8%	
3 あまり関心がない	47人	15.0%	
4 全く関心がない	3人	1.0%	
5 わからない	16人	5.1%	

N=314

**問3 あなたは、犯罪をした人の立ち直りに協力している民間協力者を知っていますか。
知っているものをすべて選んでください。**

項目	回答者数	比率	グラフ
1 保護司 ※1	272 人	34.0 %	
2 更生保護女性会 ※2	62 人	7.8 %	
3 協力雇用主 ※3	104 人	13.0 %	
4 BBS会 ※4	27 人	3.4 %	
5 更生保護施設 ※5	143 人	17.9 %	
6 少年補導員	166 人	20.8 %	
7 その他 ()	3 人	0.4 %	
8 わからない	23 人	2.9 %	
7 その他 ()	<ul style="list-style-type: none"> ・自分自身が防犯対策に20年間活躍しています。 ・少年院相談員ふれあい運動員 ・警察OB 		

N=800

- ※1 保護観察処分中の犯罪や非行をした人の更生を図るために生活上の助言や就労の手助け等を行う非常勤の国家公務員
- ※2 地域の犯罪予防や青少年の健全育成、犯罪者・非行少年の改善、更生に協力する女性のボランティア団体
- ※3 犯罪前歴を承知の上で雇用に協力する事業主
- ※4 非行のある少年や悩みを持つ子どもたちに、兄や姉のような立場で接しながら、その立ち直りや成長を支援する活動等を行う青年のボランティア団体
- ※5 出所後、直ちに自立することが困難な人たちに対して、一定期間、宿泊場所や食事を提供する民間の施設

**問4 あなたは、再犯防止の取り組みを知っていますか。
知っているものをすべて選んでください。**

項目	回答者数	比率	グラフ
1 社会を明るくする運動による広報・啓発	109 人	14.1 %	
2 再犯防止啓発月間（7月）による広報・啓発	53 人	6.9 %	
3 保護司、更生保護女性会等の更生保護団体、民間協力者の活動	173 人	22.4 %	
4 就労に必要な訓練を提供する等の就労確保への支援	110 人	14.2 %	
5 住居確保への支援	55 人	7.1 %	
6 地域生活定着センター事業等の高齢者・障がい者等への支援	52 人	6.7 %	
7 依存症に関する支援のための相談窓口の設置や医療体制の整備	75 人	9.7 %	
8 個々に応じた支援プログラムの活用等の非行少年に対する立ち直り支援	34 人	4.4 %	
9 ストーカー加害者等へのカウンセリング・指導等の推進	39 人	5.0 %	
10 その他 ()	1 人	0.1 %	
11 わからない → 問6へ	72 人	9.3 %	
10 その他 ()	<ul style="list-style-type: none"> ・更生保護女性会が当地区コミュニティ推進協議会に加入し活動している。 		

N=773

問5 問4で1～10番と回答した方におたずねします。

このような取り組みを何で知りましたか。あてはまるものをすべて選んでください。

項目	回答者数	比率	グラフ
1 市をはじめとした公的機関のウェブサイト	73人	16.7%	
2 インターネット (SNSを含む)	49人	11.2%	
3 民間企業・団体からの情報	36人	8.3%	
4 講演会やフォーラム、地域の集会等	49人	11.2%	
5 テレビ・新聞	140人	32.1%	
6 家族・友人・知人	63人	14.4%	
7 その他 ()	19人	4.4%	
8 覚えていない	7人	1.6%	
7 その他 ()			
<ul style="list-style-type: none"> ・自分自身や家族が保護司をしているから ・再防犯推進計画委員である為 ・保護司候補者検討協議会委員 ・人権擁護委員会 ・関係団体の構成員 ・地域団体に保護司会が加入しており、情報を入手する機会がある ・学校の授業 ・テレビドラマ ・本、マンガ ・社会福祉協議会での実習など ・大学専攻が、社会福祉だった為 ・保護司の殺害事件、DARCの活動など 			

N=436

問6 犯罪や非行について相談があった場合、どこを紹介しますか。

あてはまるものをすべて選択してください。

項目	回答者数	比率	グラフ
1 宇部市 (関係部署・福祉なんでも相談窓口を含む)	172人	31.1%	
2 更生保護サポートセンター ラベ	50人	9.0%	
3 山口県 (関係部署)	16人	2.9%	
4 山口県警察 (宇部警察署等) ※1	221人	40.0%	
5 山口保護観察所	23人	4.2%	
6 山口地方検察庁 ※2	6人	1.1%	
7 社会福祉協議会	36人	6.5%	
8 その他 ()	4人	0.7%	
9 相談したくない	3人	0.5%	
10 わからない	22人	4.0%	
8 その他 ()			
<ul style="list-style-type: none"> ・保護司会 ・信頼している学校の先生 ・地域包括支援センター 			

N=553

※1 非行や不良行為を繰り返す児童・生徒に対して、立ち直りに向けた個別指導や、学校の対応について助言している

※2 刑事政策推進室で困窮者・高齢・障がい者への支援を行っている

問7 あなたは、犯罪をした人の立ち直りに協力したいと思いますか。

項目	回答者数	比率	グラフ
1 思う → 問8へ	38人	12.1%	
2 どちらかといえば思う → 問8へ	115人	36.6%	
3 どちらかといえば思わない → 問9へ	123人	39.2%	
4 思わない → 問9へ	38人	12.1%	

N=314

問8 問7で「1 思う」「2 どちらかと言えば思う」と回答した方におたずねします。どのような協力をしたいと思いますか。あてはまるものをすべて選んでください。

項目	回答者数	比率	グラフ
1 再犯防止に関する広報・啓発活動やイベント等に参加する	90人	36.3%	
2 再犯防止に関するボランティア活動に参加する	70人	28.2%	
3 罪を犯した人に直接、助言や援助をする	22人	8.9%	
4 協力雇用主として罪を犯した人を雇用する	5人	2.0%	
5 更生保護施設等にお金や品物を寄付する	31人	12.5%	
6 その他 ()	4人	1.6%	
7 わからない	26人	10.5%	
6 その他 ()			

- ・差別的な扱いをしない
- ・更生のためのしくみ作りのアイデアを提言する
- ・相談に乗る
- ・保護司として協力する

N=248

問9 問7で「3 どちらかと言えば思わない」「4 思わない」と回答した方におたずねします。協力したいと思わない理由はなんですか。あてはまるものをすべて選択してください。

項目	回答者数	比率	グラフ
1 自分や家族の身に何か起きないか不安だから	109人	29.6%	
2 関わりを持ちたくないから	67人	18.2%	
3 どのように接すればよいかわからないから	110人	29.9%	
4 自分自身にメリットがないから	24人	6.5%	
5 興味がないから	14人	3.8%	
6 犯罪をした人への支援などは国や地方公共団体が行うべきだから	24人	6.5%	
7 犯罪をした人への支援の必要性を感じないから	10人	2.7%	
8 その他 ()	10人	2.7%	
8 その他 ()			

- ・犯罪や非行を起こさせない為の活動には参加している
- ・心理学的見地からの判断で、どのように対応することで、再犯防止につながるか理解できない
- ・雇用主が雇用したら一緒に働くとと思う
- ・年齢的に自信がない、不安だから
- ・先日の保護司の殺人事件
- ・気持ちに余裕がないから
- ・時間の余裕がないから

N=368

問10 再犯防止のために、市として、どのような取り組みに力をいれることが必要だと思いますか。あてはまるものをすべて選択してください。

項目	回答者数	比率	グラフ
1 理解促進や関心を醸成するための広報啓発活動の促進	131人	12.9%	
2 保護司や協力雇用主等の民間協力者の活動促進のため、活動する場所の提供や財政的な支援	167人	16.5%	
3 罪を犯したり、非行をした人が仕事や住居を確保するための支援	133人	13.1%	
4 罪を犯した高齢者や障がいのある人等への支援	106人	10.5%	
5 薬物中毒等の依存症になった人への支援	82人	8.1%	
6 罪を犯したり、非行をした人の特性に応じた指導・支援	133人	13.1%	
7 学校等と連携した就学等の支援	80人	7.9%	
8 立ち直りを決意した人を受け入れていくことができる地域づくりへの支援	145人	14.3%	
9 その他 ()	12人	1.2%	
10 わからない	23人	2.3%	

9 その他 ()

- ・犯罪者の個人情報がかく分らない。対応のしようがない。
- ・サポートセンターとの連携体制
- ・犯罪を犯した人たちに対する偏見を排除することも大切だし、犯罪を犯した人たちが人として立ち直り成長し続けられる仕組みとそれが確認できる仕組みの両方があるといいと考えます。人が人として成長し続けられる仕組みと制度
- ・みんなが安心して安全に暮らせることと法を犯した人も一緒に、ということが同じ理性では感じられないですが、もし自分や家族が前歴を持って地域で暮らせるか、と思うと世間の目はすさまじく恐ろしいです。
- ・いつも被害者はそのまま、犯罪者に手厚い社会。そして再犯。日本は犯罪者に優しく罪を償う意識が低いのでは、と思います。犯罪の内容にもよりますが、二度としないと考える様な刑を。快適な刑務所、人権を尊重される刑務所では、再犯ありと思います。
- ・先日保護司を殺害する事件が起きたが、再発防止策を確立しないと保護司になり手が増々減少する。
- ・嫌な思いをすることは必ずあるので、その現実を受け止める心の強さを獲得するための仕組み作り（カウンセリング、当事者の集まり、セミナーなど
- ・一般人との隔離、GPSによる追跡など。犯罪者の人権や生活よりも善良な市民を守ることを優先すべき。
- ・今まで自分のこととして考えたことがありませんでした。更生を望む人それぞれの支援ならば、すべての支援が必要ではないでしょうか。
- ・被害者側へのケア

N=1,012

担当部署による総括

令和2年3月に策定した「宇部市再犯防止推進計画」を「知っている」と答えた方は19.1%に留まりました。一方で、再犯防止に「関心がある」と答えた方は、「非常に関心がある」と「ある程度関心がある」を合わせて79.0%であり、計画は広く認知されていないものの、再犯の防止には、多くの方が関心を持っておられることがわかりました。

また、犯罪をした人の立ち直りに「協力したいと思わない」と答えた方は、「思わない」と「どちらかといえば思わない」を合わせて51.3%と約半数となりました。協力したいと思わない理由として、本年5月に大津市で更生活動に携わっていた保護司が亡くなられた事件を取り上げるものもありました。

さらに、市として力をいれる必要がある取り組みとしては、広報啓発活動に加え、保護司や協力雇用主等の民間協力者への支援や、犯罪や非行をした人の特性に応じた指導・支援、仕事や住居を確保するための支援などが期待されていることが確認できました。

今回のアンケートで寄せられたご意見は、令和7年度から令和11年度までを計画期間とする第二次宇部市再犯防止推進計画策定の参考にさせていただき、引き続き再犯防止に関する市民の理解を深めるとともに、関係団体と力を合わせ、犯罪や非行のない社会を目指していきます。

ご協力ありがとうございました。